

3 稲体活力維持のポイント

令和6年は、中干し・間断かん水・飽水管理での干しすぎにより、穂数や1穂粒数が減少し、収量が低下しました。①中干しや間断かん水で干しすぎないこと、②幼穂形成期～出穂期の飽水管理の徹底を図りましょう。

(1) 溝切り

①効果

- ・ほ場への入水、排水が短時間に均一に行え、水管理がしやすくなる。
- ・ほ場全体が均一に乾くため、生育ムラが改善する。

②ポイント

- ・中干しを開始する前に必ず行う。
- ・中期除草剤を散布する場合は、散布前に行う。
- ・乾きにくいほ場や場所は多めに切る。
- ・溝と溝をつなぎ、水戸尻まで確実に連結する。

溝切りをしないとほ場内に地耐力のむらができ、収穫作業に支障をきたすおそれあり



写真1 溝切りをしないほ場での収穫時の状態

(2) 中干し

①効果

- ・土壌の還元化による硫化水素や有機酸を抑制し、根の伸長を促す。
- ・無効分げつの発生を抑制する。

②ポイント

- ・田植え1か月後までに開始する。
※茎数が少ない場合は遅らせる。
特に密苗は初期茎数が取れにくいので注意する。
- ・分げつが旺盛な場合は、早めに開始する。
- ・土質や水持ちに応じて、中干し期間を調節する。
- ・一度に干し上げるのではなく、数回に分けて行い、中干し後の間断かん水と合わせて徐々に田干しを行う。

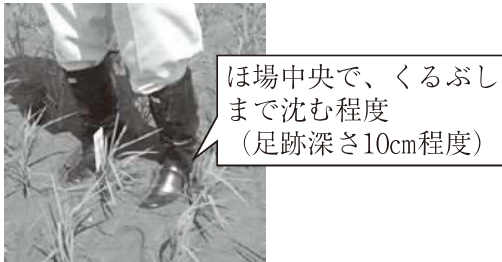


写真2 中干し終了時の目安

(3) 間断かん水(幼穂形成期まで)

①効果

- ・根に水と酸素を供給し、根の発育を促す。

②ポイント

- ・干しすぎると、稲体活力(葉色)が低下し、減少するので注意する。
- ・土質や水持ちに応じて、落水期間を調節する。
- ・幼穂形成期までに、足跡深さ3cmに誘導する。

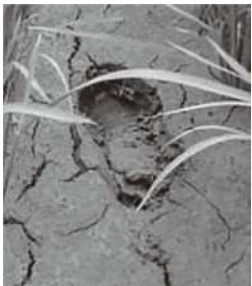


写真3 間断かん水の入水時期

適切な水管理により、根量を増やす
⇒倒伏防止
品質・収量向上

稲体活力を維持する水管理 溝切り・中干し～収穫まで

	中干し準備 根張り促進	根張り促進 無効分げつの抑制 土壌硬度の確保	根張り促進
水管理	溝切り	中干し	間断かん水
水位のイメージ			
留意点	溝切り後 そのまま中干し ※一度に干しすぎない	入水(2日程度) 落水(4日程度) 繰り返す	入水(2日程度) 落水(3日程度) 繰り返す

(4) 飽水管理(幼穂形成期～出穂期)

①効果

- ・根張りの促進。
- ・稲体活力の維持。

②ポイント

- ・出穂期まで溝や足跡に水が残る程度の湿潤状態を保つ。



写真4 飽水管理の入水時期

飽水管理の時期に干しすぎると稲体活力(葉色)が低下し、穂数や1穂粒数が減少し、収量の低下につながる

(5) 的確な追加穂肥施用

①効果

- ・稲体活力の維持。
- ・白未熟粒(背白・基白粒)の低減。

②ポイント

- ・出穂の7日前頃に葉色を確認し、葉色が極端に淡い場合は出穂3日前までに追肥する(表1)。

表1 追加穂肥の目安

品種	追肥が必要な葉色 (出穂7日前)	施用量 (kg/10a、BB穂肥35号)
てんたかく81	4.0未満	10
とみちから	4.5以下	10
五百万石	4.2以下	7
てんこもり	4.2以下	11
コシヒカリ	4.0以下	7

(6) 出穂後20日間の湛水管理

①効果

- ・稲体活力の維持。
- ・被害粒(白未熟粒や胴割米)の発生抑制。
- ・カドミウムの吸収抑制。

②ポイント

- ・出穂後20日間は田面が露出しない程度(水深3cm)を維持する。
- ・入水することで、穂の周辺温度が下がり、胴割粒や白未熟粒の発生を防ぐ(図8)。
- ・地域で効率的な水管理を行うため、かけ流しは行わない。

出穂後20日間の湛水管理で白未熟粒が少なくなる

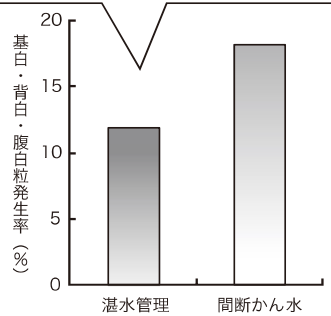


図8 出穂後の水管理と白未熟粒の発生率の関係(H25農研)

(7) 収穫5～7日前までの間断かん水

①効果

- ・登熟の向上。
- ・胴割粒の発生抑制(図9)。

②ポイント

- ・落水は急がない。
- ・フェーン時には確実に入水する。

※ただし、ほ場状況に応じて落水時期は調整する。

収穫5～7日前までの水管理で胴割粒が少なくなる

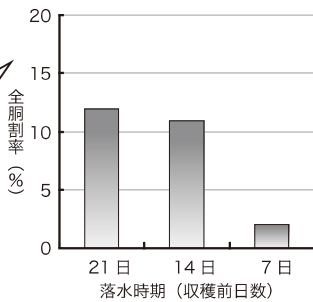


図9 落水時期と全胴割率(農研)

